

**宮城県上工下水一体官民連携運営事業
(みやぎ型管理運営方式)**

**令和5年度半期・第2四半期業務報告書
(法人・個別事業統合版)
公開版**

令和5年11月10日

株式会社みずむすびマネジメントみやぎ

[HP 公開版の位置づけ]

本報告書（HP 公開版）は、県に承認された報告書から以下の要素が含まれる部分を編集し、また、専門家ではない県民の皆様のご理解を深めて頂くことに資する「解説」等を追記したバージョンです。

編集を施した事項

- ・個人情報等に類する広く一般に公開することが適さない事項
対応) 限定的に一部情報を削除

目 次

第1章 年間事業計画と実績の差異分析.....	1
第2章 財務数値及び財務指標.....	3
2.1 財務数値.....	3
2.2 財務指標.....	4
第3章 県民等とのコミュニケーションに関する実施内容.....	4
3.1 広報活動.....	4
3.2 見学者の受け入れ.....	8
3.3 苦情等への対応.....	10
第4章 課題認識と下半期の見通し.....	11
参考資料 株式会社みずむすびサービスみやぎの財務数値	
別紙1 予実比較表	

第1章 年間事業計画と実績の差異分析

年間事業計画の本文に記載した計画と、令和5年度第2四半期までの実績の差異状況を表に示す。「○」は進捗が計画通りであることを示し、①～⑤は差異が生じており、以下に差異理由を示す。

- ① 「水道用水供給事業における供給水量の増加による売上げの増加」や、「全般的な費用削減効果」による営業利益の増加等により、法人および各事業ともに経営状態は計画時の想定よりも良好である。各事業の詳細は第2章に示している。
- ② 4月8日に大崎広域水道用水供給事業 麓山浄水場の中央監視装置において、「流量調節弁」にて涌谷受水点への送水流量の調整を行う際に、誤操作により送水流量を急激に変化させたことで、送水管内に付着する濁質が水道用水中に遊離し、要求水準（濁度 0.1 度以下）を超過した。なお水道法の基準である2度は遵守しており、断水は発生しなかった。要求水準違反レベル3に該当するため、4月19日付で県から改善命令の通知を受け、4月28日付で県に改善計画書を提出し、5月31日付で改善計画の完了を報告した。
- ③ 県に承認された最新の改築計画書に基づき実施している。発注総額は計画の水準に落ち着く見込みである。
- ④ 計画の教育に加えて、②の事故を受けヒューマンエラー対策研修を追加で実施した。
- ⑤ 計画の教育に加えて、5月にポンプ軸封部に関する知識教育、6月にポンプ主要部品交換に関する教育と上水用水質計器に関する教育を実施した。

表 1-1 年間事業計画と実績の差異表

○：差異無し 番号：下表に詳細を記載

年間事業計画	法人	個別事業							
		大崎 広域 水道	仙南・仙 塩広域 水道	仙塩 工業用 水道	仙台圏 工業用 水道	仙台北 部工業 用水道	仙塩 流域 下水道	阿武隈 川下流 流域 下水道	鳴瀬川 流域 下水道
第1章 計画書の位置づけ									
第2章 経営に関する計画									
2.1 組織体制	○	(法人と同じ)							
2.2 役員構成	○								
2.3 有資格者の配置	○								
2.4 予定する委託業務	○								
2.5 収支計画		①							
2.6 セルフモニタリング	○	(法人と同じ)							

年間事業計画	法人	個別事業								
		大崎 広域 水道	仙南・仙 塩広域 水道	仙塩 工業用 水道	仙台圏 工業用 水道	仙台北 部工業 用水道	仙塩 流域 下水道	阿武隈 川下流 流域 下水道	鳴瀬川 流域 下水道	吉田川 流域 下水道
2.7 情報公開	○									
2.8 環境対策	○									
2.9 地域貢献	○									
第3章 維持管理に関する計画										
3.1 維持管理の位置づけ										
3.2 維持管理方針	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3.3 維持管理体制	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3.4 維持管理に係る必要 資格	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3.5 維持管理計画	○	②	○	○	○	○	○	○	○	○
第4章 改築に関する計画										
4.1 改築の位置づけ										
4.2 改築方針	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4.3 改築実施体制	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4.4 改築に係る必要資格	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4.5 改築計画	③									
第5章 危機管理に関する計画										
5.1 訓練・教育	④	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
5.2 ワークショップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5.3 各種事業計画の見直し	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第2章 財務数値及び財務指標

2.1 財務数値

当社の令和5年度第2四半期までの財務数値を表2-1、表2-2に示した。年間事業計画におけるPL系財務数値との予実比較は、別紙1にまとめた。なお、株式会社みずむすびサービスみやぎの財務数値は参考までに巻末に示した。

表 2-1 財務数値（損益計算書系）（令和5年度第2四半期末累計）

単位：百万円

項目	法人	個別事業								
		大崎 広域 水道	仙南・仙 塩広域 水道	仙塩 工業用 水道	仙台圏 工業用 水道	仙台北 部工業 用水道	仙塩 流域 下水道	阿武隈 川下流 流域 下水道	鳴瀬川 流域 下水道	吉田川 流域 下水道
		売上高	3,642	720	734	124	70	25	757	787
売上総利益	727	248	246	47	25	6	66	42	13	18
営業利益	614	218	212	46	24	5	48	24	11	11
経常利益	562	201	197	42	21	4	43	19	10	9
税金等調整前純利益	562									
純利益	385									

※端数は百万円未満を切り捨て。以下同様。

表 2-2 財務数値（貸借対照表系）（令和5年度）

単位：百万円

項目	第1四半期末	第2四半期末
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,725	5,711
純資産合計	3,214	3,542
有利子負債残高	7,587	7,587
負債合計	8,291	8,435
総資産合計	11,506	11,977

解説： PL系財務数値の前年同期比

令和4年度第2四半期までの数値と比較すると、売上高は220百万円増加しました。令和5年度は、夏季に大雨の影響を受けた令和4年度と異なり、流域下水道事業での顕著な売上増加は生じませんでした。一方で、昨今の物価上昇（特に電力費）により、実施契約に定められた利用料金の臨時改定が適用され、売上が増加しています。

2.2 財務指標

当社の令和5年度第2四半期までの財務指標を表2-3に示した。なお、本期間においての借入金の返済は利子分のみであるためDSCRの数値が大きくなっている。

表 2-3 財務指標（令和5年度）

項目	第1四半期末	第2四半期末
流動比率	1,115%	988%
DSCR	66.6	21.1
有利子負債比率	134%	125%

※株主融資である劣後ローンを資本とした場合

第3章 県民等とのコミュニケーションに関する実施内容

3.1 広報活動

当社の令和5年度第2四半期の広報活動は以下のとおりである。（株式会社みずむすびサービスみやぎと連携して実施している活動を含んでいる。）

(1) 当社が実施した広報活動

■ みずむすびフェス（下水道まつり）

年間事業計画書（法人版）表2.9.2-1の「下水道まつり」に関する項目に基づき、9月9日（土）に県南浄化センター、9月23日（土）に仙塩浄化センターにて、近隣住民を対象にした、下水道への理解促進と地域貢献を目的としたイベント「2023 みずむすびフェス」を開催し、両会場を合わせて約2200人の来場者を集めた（なお、下半期にはなるが、10月14日（土）に大和浄化センターでも開催済である）。

特に当社事業や、下水道および浄化センターの役割の理解を深めて頂く取組として「浄化センターの見学ツアー」、「顕微鏡で微生物観察等」、「当社保有給水車の展示」等を行った。また、県内の水事業に関わりのある企業や当社の株主企業の協力のもと、工事用車両の操縦や高所作業車の乗車体験等の出展も行った。加えて、地域で活動する団体のステージパフォーマンスや幼稚園児による水の絵画展等により、地域の皆様の関心を集めた。



図 3-1 会場直後の来場者



図 3-2 浄化センター見学ツアー



図 3-3 顕微鏡で微生物観察



図 3-4 働く車体験



図 3-5 ステージパフォーマンス



図 3-6 給水車展示

■ 水の教育プログラム

年間事業計画書（法人版）表 2.9.2-1 の「水の教育プログラム」に関する項目に基づき、8月21日（月）に利府町東部児童館にて出前授業を実施した（参加者：児童35名、児童館スタッフ5名）。

浄水場で水道水になるまでの一連の処理を説明した後、フロック形成、砂ろ過、浄水場から貯水池までの配水等について実験を行った。



図 3-7 フロック形成実験



図 3-8 砂ろ過実験

また、8月3日（月）に小学3年生から6年生を対象に、南部山浄水場と県南浄化センターの施設見学、およびペットボトルろ過キットによる浄水実験と、顕微鏡による微生物観察を行う自由研究バスツアーを実施した。



図 3-9 施設見学



図 3-10 美味しい水ができるまで



図 3-11 ペットボトル砂ろ過キット製作



図 3-12 微生物観察

解説： 自由研究バスツアー

これまでの見学者の受け入れは、主に教育機関における課外授業等に関係して実施してきました。今年度は、より幅広い県民のみなさまへアプローチするために、参加者を当社ホームページ上で広く募集し、水の流れを意識した1日かけたバスツアーとすることで、浄水場・浄化センター単独の見学だけでなく、上下水道事業の関連性や、みやぎ型における当社の一体的かつ面的な運営等の理解を深めてもらうことを目的に企画・実施をしました。令和6年度もさらに改善した内容での実施を予定しています。

■ 当社ホームページによる情報発信

年間事業計画書（法人版）表 2.9.2-1 の「ホームページの活用」に関する項目に基づき、ホームページを通じた情報発信を行った。

- 水質データ
上水・下水は月1回、工水は毎日（土日祝日を除く）水質試験データを更新した。
- 調達契約情報
建設工事に関する契約情報の更新や公募公告の掲載等を表 3-1 のとおり発信した。

表 3-1 調達契約情報発信状況

日付	更新内容
7/3	契約情報更新「巨理ポンプ場自家発電設備等改築工事」他2件
7/5	公募公告掲載「県南浄化センターほか設備改築詳細設計業務委託」他2件
7/5	契約情報更新「第二受水池無停電電源装置ほか更新工事」

日付	更新内容
7/11	公募公告掲載「鹿島台浄化センター現場情報ｼﾌﾞﾝ整備工事」他2件
7/18	契約情報更新「大和浄化センター汚泥機械濃縮設備改築工事」他1件
7/19	公募公告掲載「麓山浄水場ほか設備改築詳細設計業務委託」他1件
7/24	契約情報更新「魚板取水場監視制御設備更新工事」他5件
7/26	契約情報更新「仙台ポンプ場ほか特殊電源設備等改築工事」他1件
8/4	建設工事「発注見通し」更新
8/8	契約情報更新「県南浄化センター現場情報ｼﾌﾞﾝ整備工事」他4件
8/22	契約情報公開「大槻浄水場ほか設備改築詳細設計業務委託」他2件
8/31	公募公告掲載「鶴ヶ谷ポンプ場ほか機械設備更新工事」他2件

- 業務報告書
令和4年度第4四半期業務報告書、令和4年度年間業務報告書、令和5年度第1四半期業務報告書を公開した。
- 会社法に基づく決算公告の公開
7月13日に令和4年度の決算公告を掲載した。
- ニュースリリース
以下のとおり、ニュースリリースを実施した。
 - 7月4日『第4四半期業務報告書』公開のお知らせ
 - 7月13日『令和4年度決算公告および財務諸表一式』公開のお知らせ
 - 7月21日 自由研究バスツアー参加者募集のお知らせ
 - 7月31日 令和4年度『年間業務報告書』及び「セルフモニタリング結果報告書」公開のお知らせ
 - 7月31日 改善モニタリング委員会を開催しました
 - 8月30日「令和5年度第1四半期業務報告書」公開のお知らせ
 - 9月12日「みずむすびフェス2023」に関するお知らせ

■ ボランティア活動

年間事業計画書（法人版）表2.9.2-1の「ボランティア活動」に関する項目に基づき、清掃活動等を行った。

- 清掃ボランティア活動
 - 仙塩工業用水道事業/仙台圏工業用水道事業
 - 9月27日 大倉ダム周辺
 - 仙塩流域下水道事業
 - 9月15日 仙塩浄化センター周辺
 - みやぎふれあいサポーター

9月16日 多賀城みずむすび公園



図 3-13 9月16日多賀城みずむすび公園での活動

- その他のボランティア活動
8月21日仙塩浄化センターにて、献血車両の受入れと献血への協力を行った。

(2) 当社が協力した、県が主催する広報活動

- 「下水道の日」パネル展（9月11日（月）～9月15日（金）に宮城県庁舎にて展示）へのポスター作成の協力を行った。



図 3-14 「下水道の日」ポスター

(3) メディア掲載件数

表 3-2、3-3 に当社に関連して令和 5 年度第 2 四半期に各メディアに掲載された件数と内容を示した。

表 3-2 メディア掲載状況

日付	掲載媒体	見出し
8/26	河北新報	水道みやぎ経営審査委 22 年度運営状況 増収増益を報告

表 3-3 テレビ放映状況

日付	局	番組名
9/9	東北放送	tbc ニュース（水道事業を楽しく学ぶ見学会）

3.2 見学者の受け入れ

当社が管理する各運営権設定対象施設への、第2四半期における見学者の受け入れ実績を表3-4に示した。

表 3-4 見学者受け入れ実績

事業名	施設名	日付	団体名	人数(人)
大崎広域水道	麓山浄水場	7/5	市民団体	12
	麓山浄水場	7/10	近隣の小学校	15
	中峰浄水場	7/10	近隣の小学校	3
	麓山浄水場	7/25	近隣の小学校	15
	麓山浄水場	9/8	市民団体	16
	麓山浄水場	9/20	工業用水道ユーザー	2
仙台北部工業用水道	麓山浄水場（工水濁度低減処理施設等）	9/20	工業用水道ユーザー	2
仙塩工業用水道	大楯浄水場	8/1	省庁	5
	大楯浄水場	9/24	議員	2
	郷六取水口	9/29	NPO 法人	16
仙南・仙塩広域水道	南部山浄水場	7/15	地方自治体	15
	南部山浄水場	8/3	水道事業関係者	22
	南部山浄水場	9/7	近隣の小学校	42
仙塩流域下水道	仙塩浄化センター	7/4	近隣の小学校	48
	仙塩浄化センター	8/1	省庁	5
阿武隈川下流流域下水道	県南浄化センター	8/3	水道事業関係者	22
	県南浄化センター	9/1	近隣の小学校	121
吉田川流域下水道	大和浄化センター	7/5	近隣の小学校	11
	大和浄化センター	9/22	水道事業関係者	3
合計				377

3.3 苦情等への対応

第2四半期における苦情等の内容とその対応について、表3-5に示した。

表3-5 苦情等への対応

事業名	施設名	苦情等 受付日	苦情等の内容	苦情等 対応日	対応内容
大崎広域水道	受水幹線流量計室	9/14	関係者より当社の点検時における交通誘導方法等についての指摘	10/11	<ul style="list-style-type: none"> ・交通誘導方法等について、道路使用許可申請における内容に準拠しており、道交法上の問題がないことを確認 ・今後は交通量等の現場ごとのリスクを踏まえ、看板設置や追加の誘導員配置等を検討
仙南・仙塩広域水道	南部山浄水場	8/31	地域住民より浄水場を出入りする車両の運転方法に関する苦情	9/4	<ul style="list-style-type: none"> ・社内だけでなく、社外（県、受託企業等）の関係者へ交通マナーに関する注意喚起を実施 ・今後は交通安全に関する外部講師を招聘した研修等を企画

第4章 課題認識と下半期の見通し

昨年度中の業務引継ぎ、および4月以降の事業運営の実績を踏まえ、法人及び各事業の上半期の課題認識と下半期の見通しを、表4-1に示した。

表4-1 上半期の課題認識と下半期の見通し

上半期の課題認識	下半期の見通し
法人	
<p>① 政府支援の効果もあり、電力費の上昇は落ち着いたものの、その水準は高止まり状態であり、依然として当初の想定より高い水準にある。</p> <p>② 電子部品等の長納期化の影響による改築工事の工程遅延は、比較的緩和してきたが、一部部品の供給がネックとなり全体の工程が遅延するなど、依然として継続している。</p> <p>③ ベンダーロックインに起因する中央監視設備等の重要設備の維持管理に関して、事業期間中だけでなく事業終了後も見据えた対応をしていく必要がある。</p> <p>④ 今期より任意事業（小水力発電）の事業化に着手し、下半期中に運用開始を目指しているが、水質・水量に影響を与えないように施策を講じる必要がある。</p> <p>⑤ 事業開始から1年半を経過し、運営体制に配置されている出向者の帰任に伴うスムーズな引継ぎや、段階的な地域人材化が必要な段階にある。</p>	<p>① 今年度中の政府支援の継続が見込まれることから、当初想定していたみずむすびサービスみやぎの経営に対する影響は期初の想定よりも緩和される見込みである。しかし依然として、利用料金収入における動力費分と実際の支出は大きく逆ザヤの状態にあり、人件費、修繕費等での合理化・効率化が不可欠な状況にある。</p> <p>② 電子部品の納期情報を定期的にメーカーへ確認するとともに、引き続き工事の早期発注に努める。また、工事に長納期品が含まれる場合には、工事発注時点で余裕を持った工期を設定し、工程遅延、工期延長が発生しないよう配慮する。</p> <p>③ ベンダーロックインへの対応として、該当する設備の改築時期の前倒しや代替部品、機器への交換を早期に進めていく。また、事業終了後や主要部品の廃版等への備えとして、定常的な予備品のストックにも取り組んでいく。</p> <p>④ 任意事業の事業者や、関係する市町と協力し、特に水車が計画外に停止するようなトラブル時の対応について万全を期した計画としていく。</p> <p>⑤ 引き継ぎ時には1か月～数か月の引継ぎラップ期間を確保し、円滑な引継ぎに努める計画とする。特に当社においては株主企業等において採用を進め、出向者ではあるものの、地域に生活拠点を置く人</p>

上半期の課題認識	下半期の見通し
<p>⑥ 本事業に関する情報発信に関して、従来の内容は概ね引き継いでいるものの、民間らしい新たなアプローチや、みずむすびサービスを含めた財務情報の表現法等を検討する必要がある。</p> <p>⑦ 地元企業への発注を増やしていく命題に対して、地元企業がチャレンジしやすい環境や条件を整えていく必要がある。</p>	<p>材へ交代を図っていく計画である。維持管理体制においては、管理の安定化が図られた浄水場や浄化センターから順次、出向者の帰任を進め、プロパー人材が管理ポストを占める体制へ移行していく。</p> <p>⑥ これまでは要求水準の範囲での発信に留まっていた部分が大きかったが、下半期には、発信方法や経路を新たに検討し、事業や当社の活動の理解を深めることに寄与する施策を実施する。</p> <p>⑦ 上半期に引き続き、受注の可能性がある地元企業の探索と個別のヒアリングを実施し、応札対応が可能な諸条件を検討する。</p>
大崎広域水道事業	
<p>① 麓山浄水場中央監視装置の誤操作による要求水準違反（レベル3）が4月に発生した。</p> <p>② 麓山浄水場中央監視装置の改築工事が開始した。当該工事に起因する事故がないように各種対策が必要である。</p> <p>③ 降雨時には、色度の変化にも留意した各受水点の残留塩素濃度の管理が必要である。</p> <p>④ 原水水質に起因するカビ臭および色度対策を継続的に強化する必要がある。</p>	<p>① 更新予定の中央監視装置に誤操作防止機能を追加するとともに、継続的な取り組みを実施することにより、類似事故の発生は抑制される見込み。</p> <p>② 安全対策や養生作業を含めて、本工事に係る各部門の関係者が連携した体制を構築し、年度末の完工を目指す。</p> <p>③ 降雨時の浄水処理はろ過池出口の色度、また末端受水点の残留塩素濃度の低下を考慮して適切な次亜注入率を設定する。</p> <p>④ 適切な活性炭処理および水質分析体制を維持していく。</p>
仙南・仙塩広域水道事業	
<p>① 南部山浄水場中央監視装置の改築工事が開始した。当該工事に起因する事故がないように各種対策が必要である。</p> <p>② 連絡管が供用開始されたことに伴い、高区系と低区系の残留塩素濃度管理を両立する新たな管理体制が必要である。</p> <p>③ 受水点でアルミニウム及びその化合物が突発的に検出されたことに伴い、原因の</p>	<p>① 安全対策や養生作業を含めて、本工事に係る各部門の関係者が連携した体制を構築し、順次、準備を進める。</p> <p>② 連絡管が供用後の水質データを収集し、管理目標値の見直しも視野に入れながら、実態に合わせた運転管理体制を再構築する。</p> <p>③ 南部山浄水場の運転維持管理業務及び保守業務において、その後の検出や、アル</p>

上半期の課題認識	下半期の見通し
<p>究明が必要である。</p> <p>④ 原水水質に起因する有機物量の対策強化が継続的に必要である。</p>	<p>ミニウム濃度が上昇する可能性のある事象は確認されていないが、必要な調査は継続していく。</p> <p>④ 得られた運転管理情報や水質データに基づき、適切な活性炭処理及び水質分析体制を強化、維持していく。</p>
仙塩工業用水道	
<p>① 郷六取水場の油混入に備えた体制を強化する必要がある。</p>	<p>① 検知器が発報した後の手順を明確に定める。現地確認（臭気や目視による異常の有無）に加えて、熊野堂取水への切り替え要領を定める。</p>
仙台圏工業用水道事業	
<p>① 熊野堂取水場（名取川）からの取水量管理の見直し（確認）が必要である。</p>	<p>① 熊野堂取水場送水ポンプの特性を確認し、水利権上限に近い量を送水（取水）する場合の対応方法について関係者間で協議する。</p>
仙台北部工業用水道事業	
<p>① 工水ユーザー向けの FAX 自動送信システム（工水濁度情報提供装置）サービスが 2024 年 2 月末で終了する予定。</p>	<p>① 本システムの更新、もしくは別の代替案を検討する。</p>
仙塩流域下水道事業	
<p>① 水処理設備の部品供給が終了しているものがあり、遠方操作ができず、現場で手動操作している。</p> <p>② 稼働している中央監視装置の保守点検等において納入メーカーの協力が十分に得られない状況が継続している。</p> <p>③ 塩竈中継ポンプ場流入水の水質負荷が高い傾向が続いている。</p>	<p>① 中央監視装置等の改築計画を見直し、設備の更新時期を前倒しにすることでリスクの低減を図っていく。</p> <p>② 中央監視装置等の改築計画を見直し、設備の更新時期を前倒しにすることでリスクの低減を図っていく。</p> <p>③ 塩竈中継ポンプ場の水質調査を実施し、流入水質の負荷が高いことが判明した場合は、県より自治体へ調査や指導等の働きかけを続けていただく。</p>
阿武隈川下流流域下水道事業	
<p>① 水処理施設が地盤沈下の影響を受けていることが懸念される。</p>	<p>① 水理計算によって水処理の各施設の高低差を確認し、水処理への影響の有無について検証する。</p>

鳴瀬川流域下水道事業	
① 冬期の流入水質負荷が高い傾向にあり、 運転方法の変更や分析回数を増やすなど し、対応に苦慮している。	① 流入水を分析し、負荷が高い場合は県へ 報告し、各自治体へ調査や指導等の働き かけを続けていただく。
吉田川流域下水道事業	
① 中央監視装置関連の故障が出始め、予備 品の基板を使用しながら対応している。	① 製造が終了している部品も多いことか ら、抜本的な設備故障の対応方法を検討 する。

解説： ベンダーロックイン

外部に開示されていない独自技術を利用したシステムの運用等において、実質的にシステムの製造元（ベンダー）に、保守点検、修繕、改築等を依存せざるを得ない状況となり、競争性を確保した調達だけでなく、実質的に他のメーカーへの変更が困難になる事態をベンダーロックイン（vendor lock-in）と言います。ベンダーロックインを回避するためには、標準的でオープンな規格の採用や、システムの過度なカスタマイズを避ける等の方法があります。その一方で、各メーカーの独自技術の採用にはメリットもあり、システムの導入時にベンダーロックインのデメリットが顕在化しないよう製造元と十分な協議を実施し、契約等においてサポートの努力義務を約束しておくことが有効です。当社は、中央監視装置の更新において、事業期間終了後のベンダーロックインデメリットの顕在化を避けるため、製造元とサポートの継続について協力を頂くことについて合意をしています。

解説： 任意事業（小水力発電）

本事業の実施契約書にて定められている、義務的任意事業の1つです。仙南・仙塩広域水道用水供給事業においては七ヶ宿ダムから各市町まで水位差を利用した送水がなされているため、送水管の途中に発電機（水車）を設置することで水位差のエネルギーを活用し、温室効果ガスを排出しないクリーンな発電を行うことを検討しています。

解説： 色度

水中に含まれる溶解性物質及びコロイド性物質が呈する、淡黄色から黄褐色系統の色の程度を数値で表した水質の指標です。水道水質基準では「5度以下」、本事業の要求水準においては「1度以下」と定められています。色度は水道水の味や臭いへの影響や、塩素消毒によりトリハロメタンの発生等につながる場合があります。そのため、皆様にお届けしている水道水だけでなく、浄水プロセスの各段階で常にモニタリングをすることで、追加する薬品を増減したり活性炭を注入して直接的に除去したりといった対応をしています。

参考資料 株式会社みずむすびサービスみやぎの財務数値

当社から運転維持管理業務を委託している、株式会社みずむすびサービスみやぎの、令和5年度第2四半期までの財務数値を表参-1、参-2に示した。

表 参-1 財務数値（損益計算書系）（令和5年度）

単位：百万円

項目	第1四半期	第2四半期
売上高	1,319	1,449
売上総利益	7	68
営業利益	▲37	22
経常利益	▲35	22
税金等調整前純利益	▲35	22
純利益	▲36	22

表 参-2 財務数値（貸借対照表系）（令和5年度）

単位：百万円

項目	第1四半期末	第2四半期末
現金及び現金同等物の四半期末残高	405	581
純資産合計	455	477
有利子負債残高	0	0
負債合計	672	874
総資産合計	1,128	1,352

別紙1：予実比較表

【法人】

(単位：百万円)

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	1,768	1,874	3,642	6,379	57%
売上総利益	377	350	727	1,241	59%
営業利益	321	293	614	938	65%
経常利益	295	267	562	826	68%
税金等調整前当期純利益	295	267	562	826	68%
当期純利益	204	181	385	572	67%

<法人：予実比較分析>

法人としての上半期の売上高は、運営権収受額の臨時改定等により年間計画の50%を上回った。下半期も同様の傾向が見込まれ、年度末の売上高は計画を上回る見通しである。

法人としての上半期の営業利益は、売上増加と、経費削減による効果で年間計画の65%まで到達した。主な経費削減は、固定資産計上の期ずれによる減価償却費の減少、計画時に予備費として見込んでいた費用が未消化となっていること等である。年度末の見通しとしては、売上増加と抑制的な経費運営を進めることにより、予備費を充当する突発的な事象の発生が無い限り、営業利益は年間計画を上回る見込みである。

【大崎広域水道】

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	351	369	720	1,344	54%
売上総利益	120	128	248	453	55%
営業利益	105	113	218	370	59%
経常利益	96	105	201	333	60%

【仙南・仙塩広域水道】

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	365	369	734	1,431	51%
売上総利益	122	124	246	462	53%
営業利益	105	107	212	372	57%
経常利益	97	100	197	339	58%

<水道用水供給事業：予実比較分析>

売上高の年度末の見通しは、概ね計画通りとなる見通しである。営業利益は、売上増加及び経費削減による効果で年間計画を上回る見込みである。

【仙塩工業用水道】

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	61	63	124	237	52%
売上総利益	23	24	47	91	52%
営業利益	22	24	46	88	52%
経常利益	20	22	42	78	54%

【仙台圏工業用水道】

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	34	36	70	130	54%
売上総利益	12	13	25	48	52%
営業利益	11	13	24	45	53%
経常利益	10	11	21	39	54%

【仙台北部工業用水道】

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	12	13	25	51	49%
売上総利益	3	3	6	12	50%
営業利益	2	3	5	9	56%
経常利益	2	2	4	8	50%

<工業用水道事業：予実比較分析>

上半期の売上高及び営業利益は概ね計画通りであり、年度末も同様の見通しであるが、ユーザー企業の増減により影響を受ける可能性がある。

【仙塩流域下水道】

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	368	389	757	1,299	58%
売上総利益	49	17	66	47	140%
営業利益	40	8	48	-1	-
経常利益	37	6	43	-12	-

【阿武隈川下流流域下水道】

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	379	408	787	1,259	63%
売上総利益	28	14	42	67	63%
営業利益	19	5	24	19	126%
経常利益	17	2	19	9	211%

【鳴瀬川流域下水道】

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	45	46	91	169	54%
売上総利益	7	6	13	26	50%
営業利益	6	5	11	19	58%
経常利益	5	5	10	18	56%

【吉田川流域下水道】

項目	第1四半期 実績	第2四半期 実績	上半期末 累計①	年間計画 ②	①/②
売上高	126	131	257	456	56%
売上総利益	11	7	18	31	58%
営業利益	7	4	11	14	79%
経常利益	6	3	9	10	90%

<流域下水道事業：予実比較分析>

上半期の売上高は動力費の臨時改定の影響により計画を上回り、年度末も同様の見通しである。営業利益も売上増加と経費削減効果により計画を上回る見通しである。

なお、第2四半期の営業利益が第1四半期を下回っているのは、維持管理会社との間で第1四半期に係る委託費の精算を行ったためである。また、仙塩流域下水道は関連業務（県の汚泥処理業務）への費用配賦が、阿武隈川下流流域下水道では燃料化物の販売利益があるため、計画よりも利益が上回る傾向にある。